

令和4年3月31日
国立研究開発法人 水産研究・教育機構
水産資源研究所
水産資源研究センター長

資源評価ピアレビュー報告書への対応について

令和3年9月、10月、11月、12月の4回のピアレビュー委員会を開催し、令和2年度のマイワシ2系群、マアジ2系群、スケトウダラ2系群並びにホッケ道北系群の資源評価について日米の専門家（Steven Teo 博士、Edward Dick 博士、後藤友明博士、岩田繁英博士、松石隆博士、庄野宏博士）のレビューを受けました。なお、Teo 博士、後藤博士、岩田博士にはマイワシとマアジを、Dick 博士、松石博士、庄野博士にはスケトウダラとホッケをご担当いただきました。レビュアーからはいずれも専門的な見地から多くの指摘を頂きました。中でも Teo 博士からは本質的な課題として、資源評価モデル VPA について、現状ではさまざまな不確実性の考慮が十分でないとして、昨年度に引き続いて強い懸念が示されました。我が国の漁業における資源の利用状況や、これまでに蓄積されたデータの特性にも深く関わる問題であることから、今後5年ごとに予定しております見直しに向けて、当センターとして検討を続けます。

他の主な指摘事項は以下の通りです。

- 1) 自然死亡係数設定の根拠文献が極めて古典的である点
- 2) またがり資源における、外国の漁獲データの取得困難に起因する問題

そのほか数多くの指摘を受けています。

水産資源研究センターでは、これらのご指摘を別紙の表にとりまとめ、担当研究者を中心にそれらへの対応方針を示しました。既に実施あるいは着手している事項については、順次今後の資源評価に適用してまいります。時間を要する課題や担当研究者の努力のみによって解決できない事項についても、関係者のご協力を得ながら取り組んでまいりたいと考えております。

以上

※後藤友明博士は令和4年3月17日にお亡くなりになりました。資源評価へのご指導と多くのご助言を賜りましたことに感謝申し上げますとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。